

令和4年度 江戸川区立第三松江小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子 ・仕事をやりぬく子 ・すすんで学習する子 ・体をきたえる子 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す学校像 ・目指す児童像 ・目指す教師像 	<ul style="list-style-type: none"> 「子供の笑顔が輝きあふれる楽しい学校」「教職員が教えることの喜びに満ちた学校」「保護者・地域から信頼され愛される学校」「思いやりの心を大切にする子」「豊かに考え深めていく子」「責任をもって最後まで取り組む子」「明るく活発に運動に取り組む子」「子供を深く理解する教師」「分かる喜び・できる喜びを味わえる授業をする教師」「生活指導を充実させる教師」
--------	--	---	--

前年度までの学校経営上の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <成果> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用する工夫を行い、児童の学習意欲を向上させることができた。 ・いじめや不登校の未然防止に、校内外の教職員と連携を図り、効果が見られた。 <課題> <ul style="list-style-type: none"> ・学力面で個人差に対応した指導のさらなる工夫、充実が必要である。 ・体力テストの結果を課題として取り組んだが、目標値達成まで至っていない。引き続き持久力、投力を高める運動を中心に、体力向上を目指していく。
-------------------	---

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	来年度に向けた改善策
					取組	成果		
いさいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・アツの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年における算数少人数指導の実施 ・東京ベーンシック・ドリルの活用 ・民間委託の放課後補習教室実施 ・6年理科、社会、体育での教科担任制の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーンシック・ドリル診断シート平均正答率の向上 ・全国学力・学習状況調査にて平均正答率の向上 ・家庭学習キャンペーンにおいて、目標とする家庭学習時間数80%以上の達成率向上 	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取組は、学校全体で共通理解を図っている。引き続き、東京ベーンシック・ドリルに取り組み、個別の支援を充実させていく。 ・タブレットを活用した授業展開をさらに充実させる。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上「三松体力チャレンジ道場」の取組 ・運動遊び「わくわくタイム」実施 ・アスリートによる授業、パラスポーツ体験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定を実施して認定証を発行 ・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査で都や区の平均を上回る項目を増やす。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「三松体力チャレンジ道場」の取組をさらに活性化させて認定証発行を増やす。 ・「三松体力チャレンジ道場」と体力テストの結果を関連付けて計画を立てる。
	読書の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学級で探究的な学習の充実を図る。 ・地域図書館との連携を図り、各教科指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書科において調べ学習を充実させ、「調べる学習コンクール」への参加を促す。 ・各学年が単元に合わせて学校図書館スーパーバイザーとの連携を図る。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館ボランティアによる図書室整備や読み聞かせが充実している。 ・「調べる学習コンクール」に挑戦する児童をさらに増やして活性化させたい。 ・調べ学習を進める上で学校図書館スーパーバイザーと連携を図る。
	デジタル技術の活用能力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業を実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで学習タブレットを活用する児童の姿 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで全員がタブレットを机の上に置き、活用しながら授業を受けている姿を見て、感心した。 ・更に有効な学習ツールとなるよう、ICT研修を充実させる。
	共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点を取入れた個に応じた指導の充実 ・メンカレッジルームの活用促進 ・副障交流、交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級との共同学習の充実 ・特別支援教育に関する研修の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事等で共同学習する機会を増やす。 ・各学期に1回、必要に応じて随時研修を実施する。 	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、校外学習で合同で実施することができた。 ・巡回指導担当の教員が講師となりより実践的な研修を工夫することができた。 ・運動会と一緒に取り組む姿を見ることができた。 ・保護者への理解も促したい。 ・通常学級と特別支援学級の教員がお互いに交流する機会を増やして児童理解を深める。 ・引き続き研修を工夫していく。
特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの健全育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの健全育成に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート、QUの計画的な実施、活用 ・毎週の生活指導夕会の充実 ・スクールカウンセラー、外部機関との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題解決100% ・毎回、事前に生活指導主幹を中心に情報共有を行い、内容の精選、充実を図る。 ・いじめや不登校対策委員会を随時開く。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを大切にしている様子が、朝の登校風景からうかがえる。あいさつ標語の取組を取り入れていきたい。 ・「すぐすぐスクール職員との連携も大切にしたい。」 ・問題の早期発見、解決が図れるよう、引き続き情報共有を組織的に行う。
学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事における保護者へのアンケート実施、分析と公開 ・児童、保護者、学校評議員、教職員アンケートを計画的に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの充実 ・各アンケートの分析、改善点の公開 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページにおいて、学校の様子を毎日更新している。 ・アンケート結果の分析、改善点を公開した。 ・学校評議員会を計画通りに実施して、活発な意見交換を行うことができた。 ・学校公開、PTA行事、地域の行事をさらに充実させる。 	
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習の推進 ・相談窓口の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・本物に触れる体験を通じた児童の興味、関心、意欲の高まり ・スクールカウンセラー、巡回相談員による児童、保護者へのカウンセリングの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団の協力、出前授業を積極的に取り入れる。 ・児童の興味や関心の高まり ・特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、巡回指導員、心理士の先生方との連携を図ることができた。 ・安心して相談に来校する雰囲気はできつつある。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で、出前授業を取り入れる機会が増加した。感銘に留意して、実施している。 ・「すぐすぐスクールとの連携、地域の人材を活用してほしい。」 ・児童の学習において、学校応援団の協力を更に取り入れていきたい。 ・スクールカウンセラーや専門員との連携を深め、指導を充実させる。引き続き、相談窓口の活用を呼び掛ける。 	
特色ある教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> 「学校における働き方改革プラン」 6年生全員参加のプラスバンド 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 一人一人の意思を尊重した教育活動の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の定時退勤日の設定 校務システムの活用、会議の精選 年に2回、全校児童や保護者を対象に発表会を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員の月超過勤務40時間以下にする。 目標を設定して練習に取り組む児童の姿 	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 年々、残業時間は減ってきている。 発表会を計画通りに行うことができた。 保護者や地域の協力も得ながら進めていってほしい。 地域に発表する機会を作ってほしい。 仕事の効率化をさらに進める。 地域まつりやプラスバンド発表会を目標に引き続き取り組む。